

インフォメーション・コーナー

会 告

○第 26 回水土技術セミナー「機能保全における性能設計」の開催について (再) ㊦	62
○第 4 回産学連携推進セミナー「ストックマネジメントとその周辺技術 (仮称)」への参加募集について (再) ㊦	63
○平成 21 年度会員名簿の掲載事項について (再)	63
○学会創立 80 周年記念出版「水土を拓く一知の連環」の刊行について (再)	64
○農業農村工学会誌 (総称) 総目次 (第 6 集) の発行について (再)	64
○平成 22 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再)	64
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	64
○「農業農村工学会学術基金」の募金について	65
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い	65
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 22 年夏季の表紙写真の募集	66
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	66
○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	68
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	68
○第 58 回北海道支部研究発表会の開催について (第 2 報) ㊦	69
○北海道支部第 32 回シンポジウムの開催について (第 1 報) ㊦	69
○農地保全研究部会第 30 回研究集会の開催について (第 1 報) ㊦	70
○第 22 回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報) ㊦	70
学会記事	71

第 77 巻第 10 号予定

口絵：学会創立 80 周年記念式典・祝賀会

展望：〈水土の知〉をアジア圏の共有財産へ：宮崎 毅

特集：学会創立 80 周年記念号

- ①学会創立 80 周年記念式典・祝賀会 (来賓祝辞ほか)
- ②記念講演「生命を基本に置く社会—農のもつ力への期待—」：中村桂子
- ③歴史的農業水利遺構：北海道支部・東北支部・関東支部・京都支部・中国四国支部・九州支部
- ④学会誌のキーワードからトレンドを読む：学会誌編集委員会

技術レポート

- 北海道支部：長大サイホンにおける機能診断調査について：阿部幸継ほか
 東北支部：福館放地区における魚類に配慮した環境型排水路：村元和男
 関東支部：水路トンネル補修工事の施工事例：小林 誠
 京都支部：日本古来の水車による発電と地域活性化：辻 大地ほか
 中国四国支部：農道事業における波形鋼板ウェブ PC 箱桁ラーメン橋の施工：石田光徳ほか
 九州支部：クリーク水路における水質改善対策：村田洋介

小講座：耕地整理・農業土木・土地改良：岡本雅美ほか

私のビジョン：地方技術者の展望：西尾彰洋

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成21年9月 24, 25日	水土技術セミナー 実行委員会	第26回水土技術セミナー	ⓑ 機能保全における性能設計	東京都	77巻8号
平成21年10月 21日	関東支部	第60回講演会	ⓑ	千葉市	77巻7号
平成21年10月 27, 28日	九州支部	第90回講演会・ポスターセッション・シンポジウム・第32回講習会・現地見学会	ⓑ	鹿児島市	77巻6,8号
平成21年10月 28日	北海道支部	第58回研究発表会	ⓑ	札幌市	77巻8,9号
平成21年10月 28, 29日	中国四国支部	第64回講演会	ⓑ	徳島市	77巻5,7号
平成21年10月 29, 30日	東北支部	第52回研究発表会 第43回支部研修会・第33回地方講習会	ⓑ	青森市	77巻6,7,8号
平成21年11月 5, 6日	京都支部	第66回研究発表会	ⓑ	富山市	77巻3,7号
平成21年11月 5, 6日	農村道路研究部会	平成21年度研究集会・現地研修会	ⓑ 農業農村振興に果たす農道の役割～農道のメンテナンスを中心に～	宮城県	77巻8号
平成21年11月 6日	農地保全研究部会	第30回研究集会	ⓑ 世界の農地保全問題の諸相―水土資源保全に対する技術の継承と日本の責任―	沖縄県	77巻9号
平成21年11月 19日	行事企画委員会	第4回産学連携推進セミナー	ⓑ ストックマネジメントとその周辺技術 (仮称)	東京都	77巻8号
平成21年11月 25日	北海道支部	第32回シンポジウム	ⓑ 北海道における農地の整備と地域農業の活性化	札幌市	77巻9号
平成21年11月 26, 27日	水文・水環境研究部会	第22回シンポジウム	ⓑ 農林地および広域の水文・水環境	つくば市	77巻8,9号
平成21年12月 10, 12日	資源循環研究部会	平成21年度研究発表会	ⓑ 農村における水やバイオマス等資源の利活用および循環	東京都	77巻8号

第26回水土技術セミナー「機能保全における性能設計」の開催について (再)

水土技術セミナー実行委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



農業農村整備事業における水利構造物の設計法においては、これまでの仕様規定型から性能照査型への移行が進められています。

そこで平成16年度から「性能設計」をキーワードに捉え、若い技術者を対象として、性能設計の経緯と現状、設計手法の理論的根拠となる信頼性設計法、そして実設計を担う限界状態設計法と耐久性設計法についての解説、および要求性能を実現するための施設管理を行ううえで必要な、維持管理、機能保全、劣化と機能の診断、さらには施工や補修・補強に当たっての考え方、および性能発注のあり方と問題点についてそれぞれの専門家に講義していただくセミナーを企画してきました。

性能設計への移行は単なる設計基準の改訂ではありません。性能規定化は国民への説明責任・ライフサイクルコストとストックマネジメントなど、技術者として必須の知識となっています。

本年度は、昨年度よりバージョンアップした性能設計の考え方を中心に本セミナーを企画しました。ふるってのご参加をお待ちしております。

記

1. 日時 平成21年9月24日(木)～25日(金)

2. 会場 農業土木会館6F会議室

東京都港区新橋5-34-4 ☎03-3436-3418

3. 定員 50名程度

4. 内容

性能設計の基本的考え方をまず理解し、水利構造物の性能設計、特に限界状態設計法、維持管理、機能保全、劣化と機能の診断問題などを講義を通じて理解する。

専門講師陣により、昨年度よりバージョンアップした性能設計の考え方を習得する。

5. プログラム (予定)

- ①性能設計の現状
- ②信頼性の照査
- ③安全性の照査
- ④使用性の照査
- ⑤耐久性の照査
- ⑥機能保全
- ⑦施工および補修・補強
- ⑧性能設計の実際

6. 受講費

会員 20,000円 (消費税5%, テキスト代を含む)

非会員 25,000 円 (消費税 5%, テキスト代を含む)

7. 申込方法

学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp>) の行事参加申込書を FAX
または E-mail でお送り下さい。

8. 申込先

農業農村工学会水土技術セミナー実行委員会担当あて
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail : iwasaki@jsidre.or.jp

第 4 回産学連携推進セミナー「ストックマネジメントとその周辺技術 (仮称)」
への参加募集について (再)
行事企画委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



(社) 農業農村工学会では、平成 18 年度から、農業農村整備に関する学術・技術の発展に資するよう、産と学のマッチングの場として、産学連携推進セミナーを開催してきました。

さて、先般の行事企画委員会において、平成 21 年度も昨年引き続き産学連携推進セミナー (第 4 回) を来る 11 月 19 日 (木) に開催することを決定いたしました。

今年度のテーマは「ストックマネジメントとその周辺技術 (仮称)」とすることとし、今年度から各研究部会との連携を図り、大学の先生方の積極的な参加をお願いすることとなりました。

つきましては、今後さらに産と学の連携が重要になってくることを踏まえ、今年度も、昨年に引き続き下記の要領で開催することとしました。ふるってご参加願います。

記

1. 主催 (社) 農業農村工学会
2. 後援 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所 (予定)
(社) 土地改良建設協会 (予定)
(社) 農業土木事業協会 (予定)
3. 日時 平成 21 年 11 月 19 日 (木) 10:00~18:30

4. 場所 農業土木会館 6F 大会議室

5. プログラム (予定)

- 10:00~12:00 プレセッションー民間企業技術紹介ー
13:00~16:20 産学連携セミナー
①競争的資金、官民連携事業等の紹介
②産学連携の事例
③大学等によるストックマネジメントとその周辺技術に関する研究・企画の紹介
16:20~17:00 ポスターセッション
17:00~18:30 情報交換会

6. 募集する参加者

- (1) 報告者
農業農村工学系大学および短大 (研究室単位で参加)。なお、プレセッションでは、希望する民間企業は技術紹介もできます。
- (2) 報告者以外の参加者
民間企業、大学、短大のほか、行政機関、研究機関などの関係者の参加を歓迎します。

平成 21 年度会員名簿の掲載事項について (再)

平成 21 年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記のうえ、郵便、E-mail または FAX で、10 月 2 日 (金) までにご連絡下さい。(非掲載項目につきまして、前年度までにご連絡を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です)

なお、ご連絡がない場合は、掲載に同意されない事項がないものとします。

記

会員名簿掲載事項

- ①【氏名】 ②【会員番号】 ③【出身校】 ④【卒年】
⑤【資格】 ⑥【勤務先及び役職】 ⑦【自宅住所】

⑧【自宅電話番号】

連絡先

郵便の場合：〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
農業農村工学会 花塚あて
E-mail の場合：hanatsuka@jsidre.or.jp
FAX の場合：03-3435-8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

1. 利用目的の特定、利用目的による制限
農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。
2. データ内容の正確性の確保
個人情報の正確性、最新性を確保する。

3. 安全管理措置, 従業者, 委託先の監督

安全管理のために, 学会職員, 印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。

4. 第三者提供の制限

名簿は, (社) 農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

学会創立 80 周年記念出版「水土を拓く—知の連環—」の刊行について (再)

学会創立 80 周年を記念して企画され, 編集作業を進めておりました標記図書(編集委員長:三野 徹 鳥取環境大学教授)が 8 月 3 日に刊行されました。

学会は「農業土木学会」から「農業農村工学会」への名称変更先立ち, ビジョン「新たな〈水土の知〉の定礎に向けて」を策定しました。本書はこの〈水土の知〉を古代国家成立(飛鳥時代)から近代までの歴史的歩みを軸に, 各地の農業の展開と国土の開発について, 地域固有の水・土・里を「見極める」「使い尽くす」「見定める」「大事にする」「見直す」「見通す」「仲良くする」という 7 つの視点から整理し, これからの農業農村工学のあり方を探るものです。

一般の方にも読みやすいものとなるよう工夫されていて, 専

門家でなくても理解できますので, ぜひお読み下さい。

記

書 名 水土を拓く—知の連環—

企画・編集 (社) 農業農村工学会「水工を拓く」編集委員会

発 行 (社) 農山漁村文化協会

体 裁 B5判 360 ページ 上製

価 格 定価 4,500 円(税込・送料学会負担)

会員価格 4,000 円(税込・送料学会負担)

申 込 先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

農業農村工学会誌(総称) 総目次(第6集)の発行について(再)

学会創立 80 周年記念事業の一環として, 総目次(第6集)が 7 月 29 日に発行されました。

ご希望の方に有償で頒布いたしますのでお申し込み下さい。

記

内 容 学会誌 67 巻 1 号~76 巻 12 号

論文集 199 号~258 号

英文誌 36 号~44 号

PWE 誌 1 巻 1 号~6 巻 4 号

学位取得者 平成 10 年度~平成 19 年度の学位取得者名および学位論文名の一覧

体 裁 A4 判 約 110 ページ

価 格 1,050 円(税込・送料学会負担)

申込先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

平成 22 年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)

平成 22 年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を, 77 巻 6 号 p.76 の募集要項に則って, 推薦書によりご推薦下さい。

締切りは, 平成 21 年 10 月末日です。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント, また, 通信教育で最大年間 18 CPD ポイント取得できますので, 是非, 通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で, かつ CPD 会員の方は, 農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある

参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお, この機会に農業農村工学会, 継続教育機構への入会を希望される方は, 同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので, ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内 容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPDポイント、満点で1.5CPDポイントが取得でき、CPD会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成20年度までに49件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年毎更新）に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成22年夏季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成22年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでの地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでもなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「夏」が感じられる「水利遺構」の写真を集めます。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第78巻7～9号(平成22年7～9月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成21年9月30日(夏季の写真)

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第78巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成22年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 77, 78 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
77 巻 10 号 学会創立 80 周年記念号	公募せず	
11 号 農村地域における被災時の支援 (仮)	公募終了	
12 号 小規模灌漑施設のマネジメント (仮)	公募終了	
78 巻 1 号 地球環境 (地球温暖化) 問題と農業農村工学 (仮)	公募せず	平成 21 年 10 月 9 日
2 号 生態系配慮施設の順応的管理 (仮)	平成 21 年 9 月 25 日	平成 21 年 11 月 10 日
3 号 鳥獣被害の防止策とその効果 (仮)	平成 21 年 10 月 23 日	平成 21 年 12 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

78 巻 2 号テーマ「整備された環境配慮 (生態系保全) 施設の順応的管理」(仮)

水田整備等における生態系配慮の取組みについては、平成 13 年度の土地改良法改正に伴い、さまざまな配慮工法等が考案され、対策が講じられてきたところです。

しかしながら、これまでの水田整備等における生態系配慮の取組みは、科学的な検討の上で実施されてきたものの、事前の予測とは異なる生態系の反応や周辺状況の変化等により、機能が十分に発揮されていない場合や、整備された水田等を核にさらに広域的な環境向上が求められている地域などが出てきています。

このような状況の中で、生物多様性保全を一層推進するためには、周辺状況の変化等に応じて、モニタリング結果により得られた情報を収集し、必要に応じて施設の補修や修正を行う管理である「順応的管理」を実施することが重要であります。

体的には、整備を行った後に、生物の生息・生育状況や環境の復元状況などを見ながら、簡単な手直しを行うことであり、たとえば、水田魚道であれば、魚が遡上できる流速や流量となっているか確認したうえで、必要があれば水田魚道内の間仕切りを追加するなどして、流速や流量を調整することや、また、石積水路であれば、その生息環境を確認した上で、必要があれば水路内に置石を行い、多様な流れとよどみ部を創出することなどが考えられます。

そこで、本特集では、整備後の水田等を核とした地域の生物多様性保全を一層推進していくという観点から、整備された環境配慮 (生態系保全) 施設の順応的管理について、その取組み事例や技術動向などの報文を広く募集いたします。

78 巻 3 号テーマ「鳥獣被害の防止策とその効果」(仮)

近年、鳥獣被害は中山間地域を中心に全国的に深刻化・広域化しています。その背景には農山漁村における過疎化・高齢化、また狩猟圧力の低下による鳥獣の生息分布域の拡大など、種々の要因が複合的に関連しているものと考えられます。また鳥獣被害は直接的な農作物被害にとどまらず、農業者の営農意欲の低下や耕作放棄地の増加にも発展することも懸念され、農村振興の観点からも鳥獣被害の軽減は喫緊の課題となっております。

これまでも鳥獣被害対策については、捕獲による個体数調整や恒久柵または電機柵の設置といった従来の技術から、最近では夜行性動物の習性を踏まえ青色発光ダイオードライトを設

置するといった新しい技術の導入も図られています。今後とも鳥獣による被害を効率的に減じていくためには、各地で実践されている種々の試行や工夫、またその効果や課題に関する知見を蓄積・共有していくことが有用と考えられます。

そこで編集委員会では、農業農村工学的見地からみた鳥獣被害に対する防止策を議論し、会員間で広く共有するために本小特集を企画しました。単なる被害実態の報告にとどまることなく、鳥獣被害防止策の効果と課題や新たな防止技術の開発と展開可能性について論じたもの、また野生鳥獣との共生のあり方や組織間の連携方法に関する指針など、これからの鳥獣被害防止策の発展に寄与する報文を広く募集します。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」、また、会員が薦める書籍などを紹介するコーナーとして、「私の薦める本」を設け、

随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えており

ます。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

◇オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

◇キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。
上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究

室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるもの。

原稿の長さは、刷上り2ページ(4,000字程度)で、写真を1~2枚程度入れて下さい。

◇私の薦める本は、「書籍」・「その他の著作物」など。原稿の長さは写真等を含め刷上り1ページ以内(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

奮ってご投稿下さい。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009年9月末にVol.7, No.3が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2009年9月末にVol.7, No.3が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C.)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467

FAX : +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針 : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制

- **Editor-in-Chief** : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)
Professor Emeritus, Kyushu University, Japan
- **Editors** 13 カ国から 20 名
- **Editing Board** 33 名
- **Managing Editors**
- **Chief Managing Editor** : Prof. Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep.

of China

- **Dr. Katsuyuki SHINOGI**
National Institute for Rural Engineering, Tsukuba, Japan
- **Prof. Dr. Haruhiko HORINO**
Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan
- **Dr. Kazunari FUKUMURA**
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan
- **Prof. Dr. Soon-Jin HWANG**
Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社 : Springer-Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

第 58 回北海道支部研究発表会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **期 日** 平成 21 年 10 月 28 日 (水)
2. **会 場** 札幌市・北海道大学学術交流会館 講堂
(札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ)
3. **研究発表申込み**
発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と発表形式の希望(口頭またはポスター)を E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。
発表申込みの締切は平成 21 年 9 月 18 日 (金) です。
発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。
講演集原稿の締切は平成 21 年 10 月 9 日 (金) です。
4. **参加申込み**
E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。
参加申込み締切は平成 21 年 10 月 16 日 (金) です。
5. **発表・参加申込先**
〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内
農業農村工学会北海道支部事務局
担当: 柏木淳一 E-mail : kashi@envagr.hokudai.ac.jp
☎011-706-3641 FAX 011-706-2494
6. **参加費用**
2,000 円 (当日会場にて申し受けます。)

北海道支部第 32 回シンポジウムの開催について (第 1 報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **期 日** 平成 21 年 11 月 25 日 (水)
 2. **会 場** 札幌市・北海道大学学術交流会館 2 階講堂
(札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ)
 3. **テーマ**
「北海道における農地の整備と地域農業の活性化」(案)
北海道における農業は基幹産業として位置づけられるだけでなく、日本の食糧供給基地としての役割を担っています。これは原野の開墾から始まり、農地の造成、さらに高度利用に向けた整備に至る過程で、一連の土地改良事業が適正に作用し続けた結果です。さらに、安全な食料の供給、環境に配慮した生産、農村の活性化など多角的な課題が北海道農業に突きつけられて
- います。そこで、これら今日的な諸問題の解決に向けて取り組まれた農地の整備事業を紹介していただくとともに、今後の農地の整備のあり方について検討するシンポジウムを企画しました。
- なお、発表演題や講演者などの詳細なプログラムについては来月号でお知らせする予定です。
4. **問合せ先**
〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内
農業農村工学会北海道支部事務局
担当: 柏木淳一 E-mail : kashi@envagr.hokudai.ac.jp
☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

農地保全研究部会第30回研究集会の開催について(第1報)

「世界の農地保全問題の諸相—水土資源保全に対する技術の継承と日本の責任—」

技術者継続教育プログラム認定申請中



農地保全研究部会では、平成21年11月6日(金)、琉球大学50周年記念館におきまして研究集会を開催いたします。農業農村工学会会員・非会員を問わず、多くの皆様方のご来場をお待ちしています。なお、プログラムの詳細等につきましては、第2報にてご案内いたします。

1. 開催日

平成21年11月6日(金) 10:00~17:00(受付9:30~)
現地見学会は行いません。

2. 場所

琉球大学50周年記念館

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/access/index.html

3. 問合せ先

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

三重大学大学院生物資源学研究所 成岡 市

TEL&FAX 059-231-9574

E-mail: narioka@bio.mie-u.ac.jp

URL: <http://www.bio.mie-u.ac.jp/society/nouchihozen/>

第22回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について(第2報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



水文・水環境研究部会では、第22回シンポジウムを開催します。シンポジウムの概要は8月号に掲載したとおりですが、講演申込みに関して一部変更がありましたのでお知らせします。

1. 期日

平成21年11月26日(木)、27日(金)

2. 会場

つくば国際会議場 会議室403

〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3

☎029-861-0001 FAX 029-861-1209

つくばエクスプレス「つくば駅」から徒歩十分

(会場の詳細についてはつくば国際会議場HP

<http://www.epochal.or.jp/>をご覧ください)

3. プログラム(予定)

11月26日(木)

12:45~13:00 受付

13:00~18:00 研究会(特別講演・一般講演)

18:00~20:00 情報交換会

11月27日(金)

9:00~12:00 研究会(一般講演)

14:00~16:00 研究施設探訪

(独)農研機構農村工学研究所 農村資

源研究棟(水文情報収集発信システム・

3Dドーム・DNA解析室)

つくばエクスプレス「みどりの駅」で解散

4. 講演内容

特別講演「農業水利からみた水の課題(仮題)」

筑波大学大学院生命環境科学研究科 佐藤政良教授

一般講演「農林地および広域の水文・水環境」に関する講演

5. 講演時間

1課題30分程度(質疑応答も含む)

6. 参加費

研究会参加費 1,000円

情報交換会参加費 5,000円(予定)

7. 講演申込み

一般講演を募集します。講演原稿は10頁以内で部会誌「応用水文No.22」に「論文(査読原稿)」もしくは「部会報告(査読無し原稿)」として掲載され頒布されます。申込締切日は10月2日(金)、原稿提出締切は10月16日(金)です。講演申込時には講演題目、講演者名、連絡先(住所、TEL、FAX、E-mail)、原稿種別をお知らせ下さい。なお、今回から講演原稿の書式の規定が一部変更になりました。部会ホームページをご覧ください。か水文・水環境研究部会事務局へお問い合わせ下さい。

8. 研究会・情報交換会の参加申込み

ご氏名、連絡先(住所、TEL、FAX、E-mail)および参加項目(研究会・見学会・情報交換会)を記載の上、下記の水文・水環境研究部会事務局あてFAXまたはE-mailでお申し込み下さい。参加申込締切日は11月13日(金)です。

9. 申込み・原稿送付および問合せ先

研究会事務局

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6

農研機構農村工学研究所 水文水資源研究室 堀川直紀あて

☎029-838-7538 FAX 029-838-7609

E-mail: horikawa@affrc.go.jp

部会ホームページ: <http://ealfor.ans.kobe-u.ac.jp/hydenv/index.html>